

授業概要

この授業では新古今時代の歌人を中心に、中世和歌について講義する。和歌には、①コミュニケーションツール、②文芸的な芸術作品、という二つの側面がある。一二世紀（1100年代）ごろからは、文芸性の高い作品が多く詠まれるようになるため、中世和歌を読むためにはいくつかの約束ごとを理解する必要がある。

授業の前半（第2～5回）では、そうした約束ごとの説明を行う。後半（第6～14回）では、覚えておくべき有名な歌人について概説し、その作品を見ていく（授業進度によって歌人の変更あり）。王朝文化が衰退していく中で生きた人々がどのような和歌を詠んだのか、味読してほしい。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	中世和歌の三要素① 一題詠一
第3回	中世和歌の三要素② 一歌合一
第4回	中世和歌の三要素③ 一定数歌一
第5回	歌人列伝① 源俊頼
第6回	歌人列伝② 西行
第7回	歌人列伝③ 藤原俊成
第8回	歌人列伝④ 式子内親王・寂蓮
第9回	新古今時代について
第10回	歌人列伝⑤ 藤原定家
第11回	歌人列伝⑥ 藤原家隆
第12回	歌人列伝⑦ 藤原良経・慈円
第13回	歌人列伝⑧ 俊成卿女・宮内卿
第14回	歌人列伝⑨ 後鳥羽院・源実朝
第15回	まとめ
第16回	期末レポート

到達目標

- ① 中世和歌を読解する上でもっとも基本的な三つの要素を理解することができる。
- ② 著名な歌人について、どのような人物なのか、どんな歌を詠んでいたのか理解することができる。
- ③ 平安後期～鎌倉初期の和歌史について理解することができる。

履修上の注意

単体で履修しても問題無いが、同じく和歌についての講義である「日本文学入門」と併せて受講すると、より授業内容が理解しやすい。

予習・復習

下記のレポートでは、歌人を一人選んで論じてもらう。したがって、授業を聞きながら興味をもった歌人については、よく復習すること。

評価方法

質問に対する答えを含めた授業態度（20%）・レポート（80%）の結果によって判断する。

テキスト

授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献】浅田徹『百首歌 祈りと象徴』（臨川書店）には、中世和歌の基本事項について簡潔にまとめられている。渡部泰明『和歌史』（角川選書）は、歌人ごとに説明があって便利。

シラバスに掲げた歌人の私家集は、関根慶子ほか『散木奇歌集 集注篇』、日本古典文学大系（旧版）『平安鎌倉私家集』・『山家集／金槐和歌集』、和歌文学大系『玉吟集』・『秋篠月清集／明恵上人歌集』・『拾玉集』（上）（下）・『山家集／間書集／残集』・『長秋詠藻／俊忠集』・『後鳥羽院御集』・『式子内親王集／建礼門院右京大夫集／俊成卿女集／艶詞』、ちくま学芸文庫『藤原定家全歌集』（上）（下）で読むことができる。